

有機農業の振興による島根農業の活性化

島根県農林水産部

1 施策の背景

○【島根県農業の現状】

- ・中山間地域が大半を占める本県は、農業生産の耕作条件に恵まれていない。
- ・担い手の高齢化が進んでいる。
- ・豊かで清涼な自然が存在している。
- ・農産物生産においては品質には定評。

○【農業を取り巻く状況】

- ・食に対する安全・安心志向や環境保全の関心の高まり。
- ・低成長時代を迎え、ものの豊かさから心の豊かさを求める層が増大。
- ・農村・自然への回帰志向の高まり。

農業活性化への視点と有機農業の位置づけ

有機農業の振興を本県農業活性化策の柱の一つとして明確に位置づけ

- 小規模でも他にはない特徴で全国に情報発信
- 本県の地域条件(強み)を活かした農業の振興
- 有機農業により高販売価格を狙い、「売れるものづくり」対策の推進

2 施策の目的・目標・状況

1) 目的

○本県の豊かな自然環境を保全し、持続可能な農業生産と農村生活の実現と島根県農業のブランド確立、全国への情報発信を行えるよう、さらに踏み込んだ有機農業の振興を実施

【有機農業振興の課題と取組目標】

- ①有機農業担い手の育成のしくみづくり
 - ・農業大学校を拠点とした島根オーガニックアカデミーの開設
- ②有機農業に関する技術支援及び実践者の取組支援の充実
 - ・有機農業技術情報の収集、研究、実証と技術普及
- ③販売対策につながる生産者・消費者などの連携の推進

2) 島根県における有機農業の現状(主な取組事例)

取組団体(地域)	取組概要
いわみ地方有機野菜の会 (浜田市、江津市)	○20～50代(平均36歳)の若手生産者10名による施設有機野菜栽培 ○H20年には販売会社も立ち上げ、有機野菜の有利販売を実現 ○組織内で研修の受け入れ、就農までの技術支援など人材も育成 ○約7haで約2億6千万円を売り上げ、高収益な有機農業を実現
(有)桜江町桑茶生産組合 (江津市桜江町等)	○地域内の未利用資源(桑)などを健康食品の素材として有効利用 ○栽培、一次加工などにより多くの雇用の受け皿にもなっている
吉賀町柿木村	○高齢者や小規模農家も含め地域で古くから有機農業に取り組み ○近代農法への反省から自給自足を基本にその延長で消費者との交流など顔の見える関係の中で農産物販売を実施
(農)ファーム宇賀荘 (安来市)	○全国でも有数の規模(約200ha)を持つ大規模農業生産法人 ○有機栽培による「どじょう米」の栽培や「ふゆ・みず・たんぼ」の取組み ○「ふゆ・みず・たんぼ」には毎年1000羽以上の白鳥が飛来

3 具体的な事業内容

対象事業

- | | | |
|--------------------|------------|-----------------|
| (1)有機農業担い手育成事業 | (H22~24年度) | H22予算額 16,781千円 |
| (2)島根県有機農業総合振興対策事業 | (H22~24年度) | H22予算額 13,595千円 |
| (3)有機農業等取組拡大支援 | (H22~24年度) | H22予算額 18,750千円 |

課題①「有機農業担い手育成のしくみづくり」

有機農業担い手育成事業

○島根オーガニックアカデミーの開設

- ・農業大学校を拠点施設に県内の先進農家の協力を得て、「島根オーガニックアカデミー」を平成24年度に開設

- 平成22年一有機農業指導職員育成(長期研修)、実習用露地ほ場・ハウス補修
- 平成23年一指導體制整備(技術研鑽、ほ場・テキスト準備)、水稻ほ場整備、野菜ハウス整備、機械整備、研修部門一部スタート、学生募集開始

課題②「有機農業に関する技術支援、実践者の取組支援の充実」

島根県有機農業総合振興対策事業
有機農業等取組拡大支援

○有機農業実践者ネットワーク化推進

- ・実践者の把握、意見交換・研究会の実施、ネットワーク組織の設置検討

○有機農業に関する技術支援

- ・有機農業技術の研究・普及(除草剤を使わない米づくり技術の確立等)
- ・先進経営の技術・経営構造の調査・分析と技術情報へのとりまとめ、取り組み者への提供による支援
- ・NPO法人島根有機農業協会との協働による有機農業の普及(有機農業技術研修会(連続講座)の開催、有機JAS取得支援)

○有機農業流通・販売対策事業

- ・全国商談会(オーガニックエキスポ)への参加(4団体予定)、販売研修会の開催

○有機農業の実践者の取組支援

課題③「生産者・消費者等関係者の連携推

島根県有機農業総合振興対策事業

○環境を守る農業宣言の募集・PR(平成21年度で約2,700件の宣言)

- ・宣言の募集活動、広報活動、環境農業シンポジウムの開催

○優良団体の表彰

- ・環境農業大賞の募集、審査、表彰、PR活動の実施

☆宣言者の活動支援(H22年度事業の拡充事項)

- ・宣言者の連携や消費者の生産者支援活動を誘導するためモデル的な取組の仕掛けを行う。
- ・生産者組織の販売対策モデル支援(3団体予定)
 - ①西長江エコ米栽培グループー民間団体、地域密着型商店、こだわりの米穀店などとの連携による販路確保、(松江市)
 - ②松江・八束地方持続農業研究会ースーパーへの常設販売コーナー設置の取組
 - ③注連川の糧(吉賀町)ーたんぼの生き物調査を通じた販売促進

4 今後の検討課題

- 農業・農村活性化の柱の一つに有機農業の振興を位置づけることの方角性はどうか
- 有機農業振興の課題のとらえ方、対応策へのアドバイスはないか
- 消費者理解の促進をどのように進めたらよいか

有機農業に関する施策上の位置づけ

有機農業推進法(H18年12月)

- 目的—有機農業推進の基本理念、国地方公共団体の責務や施策の基本となる事項を定め、有機農業の発展を図る。
- 基本理念—有機農業への農業者の取組の誘導、消費者志向への対応、関係者の連携、農業者の自主性等を図りつつ推進。
- 行政の責務—有機農業の推進に関する施策を総合的に策定、実施。

しまね食と農の県民条例(H19年2月)

- 目的—食と環境の面で農業及び農村の果たす役割の重要性にかんがみ、その振興について、基本理念及びその達成に向けた施策の基本となる事項を定め、農業農村の持続的な発展及び、県民の安全安心で豊かな暮らしに寄与。
- 基本理念—安全良質な農畜産物の生産及び供給を通じた県民の豊かな食生活の確保、環境と調和のとれた農業生産活動の実施による環境負荷の低減
- 県の役割—基本理念に基づき施策を策定し、関係者及び県民と連携を図りながら施策を推進。

島根県有機農業推進計画(H20年3月)における推進事項

- 技術支援—技術の開発・確立、実証、現地への波及、有機農業指導普及員の育成
- 新規参入者の育成—先進農家や民間団体の協力の下、技術習得に向けた支援を実施
- 生産環境整備—施設機械の整備支援、販路開拓・拡大支援
- 消費者との連携の促進

新たな農林水産業・農村活性化計画(平成20年3月)

- 基本目標—持続的に発展する島根の農林水産業・農産漁村の実現
- 目指すべき10年後の姿—「環境に配慮した農業から生まれる豊かな「食」の提供」を位置づけ
- 県プロジェクト—「環境負荷軽減・資源循環利用促進プロジェクト」(有機農業実践者の育成)
- 地域プロジェクト—松江、雲南、大田、浜田、益田の各圏域で位置づけ

島根オーガニックアカデミー構想による人材育成のしくみづくり

ニーズ・必要性

新規学卒者の参入希望

- 農林高校等での環境農業教育の高まり
例) 益田翔陽高校
・生物生産工学科→生物環境工学科に改組(H21)
・環境を守る農業宣言を行

他地域、他産業からの参入希望(U・Iターン)

- 都市生活者の有機農業への参入志向の受け入れ
例) 就農フェア(大阪)での聞き取り(H21.8)

慣行栽培からの参入希望

- 慣行栽培、エコ栽培からの有機農業への参入志向の受け入れ
例) 有機農業への参入希望
取り組みたい希望 51.6%

県内技術者の育成

- 有機農業指導者、実践者の技術向上等県内技術者の育

島根オーガニックアカデミー

養成部門有機農業コース(2カ年)

- 有機農業技術の基礎から実践までのノウハウの習得
- 先進農家での実習を重視
- 就農意志の確認や就農準備(農地、資金、経営計画の策定等)

【1年次】

- ・植物整理、栽培の基礎理論
- ・有機栽培技術の基礎理論
- ・農大ほ場での基礎実習

【2年次】

- ・有機農業応用技術の学習

研修部門での実践型研修

- 有機農業に即時参入を目指す実践的研修
- 参入部門にしばり、先進農家での実践研修と農大での座学の組合せ→短期間での人材育成
- 実践者の課題解決
- 農業改良普及員等技術者の養成

【長期研修】(3ヵ月~1年)

- ・習得希望作物の栽培期間に併せた研修
- ・農大ほ場、先進農家(協力農家)での実習

【短期研修】

サテライト校(先進農家等)

- 研修受け入れ、実践技術の習得、経営管理の習得

有機農業による人材

①ビジネスモデルの拡大

石見地方有機野菜の会、三和農産、桜江オーガニックファーム等のモデルの拡大

②U・Iターン等の活用による人材不足の解消

先進経営体への雇用就農、柿木等既存取組地域への参入

③既存取組農家のレベルアップ

課題の解決

有機農業における全国でも先駆的人材育